

# 第 1 回太田川住民意見を聴く会議事録

(平成 19 年 10 月 7 日(日)安芸太田町会場)

氏名等個人情報を除き 10 月中旬に公表予定です。

当日配付資料は以下の通り。

発表番号⑦

発表番号⑨

## 『太田川水系の災害防止対策』

### 【工事関係】

1. 太田川に架かる旧JRの橋脚の撤去
  - ①流木が橋脚に掛かり、水流を止め兩岸に氾濫し洪水になる。
  - ②橋脚撤去後は、水流が変わるので下流域の対応をセットで考える。
2. 太田川に沿った国道の石垣（空積み）の補強

国道の石垣が空積みなので、雑木が生え成木になると、洪水時に流木等が掛かり、石垣が崩壊し国道が通行止めとなる。
3. 太田川本流と支流が合流する地点の堤防の強化

合流地点の直近下流の崩壊がひどい（西宗川・小河内川・鈴張川・吉山川）のでより強化を図る。
4. 太田川兩岸の堤防嵩上げ

堤防の嵩上げをすると、水流は対岸に波及するため兩岸を視野に検討する。
5. 太田川河川敷の立木撤去

河川敷が立木で塞がれ、水流の調整ができなくなっている。

## 【情報関係】

### 1. 情報の開示に努める

中長期的展望に立って計画されることであるが、見直しも含め毎年どのように実施されたか県民に分かるように報告する。

### 2. ダム放流の具体的放送

防災無線放送でダム放流を知らされているが、何処地区は何時頃に増水しますと地域と時間が放送されることにより、より安全が確保できる。

### 3. 堤防工事の優先順位

堤防工事は、被災地が優先されることに異論はないが、かろうじて堤防を越えなかった地区で、耕地面積（1, 100アール）人家戸数（25戸）は相当な地区であり、同等に扱うべきと思う。

### 4. 避難場所の確保

太田川の中流、下流と川下に下がる程、水量は増し想定外の事態が起きることを憂慮する。どのような防災対策を取っても人間の力は自然には勝てないと言われているように、最後は人命尊重の見地から、安全な避難場所の確保は最重要課題だと思う。

### 5. セキュリティーカメラの設置

大雨洪水は夜間に起きることが多く、洪水時の川の状況を把握することは困難な状況にある。太田川の上流、中流、下流域にそれぞれ3～4カ所設置し、非常時に関係地域のテレビに接続放映すればより安全が確保できる。

### 6. 大学専門部会との業務提携

今後20～30年間の整備計画が策定されると聞きますが、国土交通省だけのスタッフでなく、専門分野も巻き込んだ幅広い計画書作成を望みます。

### 7. 重力式コンクリートダムの閉鎖

太田川水系の「太田川三ダム」と総称されている立岩ダム、玉泊ダム、樽床ダムの内、立岩ダムは昭和14年に完成し68年経過しております。コンクリートの耐用年数が65年と聞いており決壊を心配しています。太田川の水量が減少している現状もあり、ダム閉鎖をすれば一挙兩得になると思います。

以上

# 坪野新堤の付近図

